



いつものご飯と野菜スープの給食に  
豚の丸焼きの一切れが加わった祝いの食事

## ナブル小学校を訪ねて

金子ハルエ (ICECK)

前回は訪問することができなかったナブル鎌ヶ谷スクールに向かい、11月10日、ICECKメンバー6名は成田を出発。マニラに1泊、ミンダナオ島ではジェネラルサントスの修道院に1泊、そして、キアミに1泊と、日本を発って4日目にやっとナブルへ。

キアミを朝5時にトラックで出発、途中から現地の人と二人一組のペアになり裸馬に乗り、落馬しないように、もう一人サポートが付き、総勢約40人で約4時間。急峻な坂道は馬を降り、一本道を進んだ。疲れきってやっと到着。

ナブル鎌ヶ谷スクールは、なだらかな丘の上に、校舎2棟、ステージ、あずまや、ゲストハウスが校庭を囲む様に建っている。校舎の前には、国旗掲揚用のポール、そしてたくさん花が植えられた花壇。手を伸ばせば届きそうな山々、高い高い空、そんな所に建っている。その素晴らしいロケーションを見た途端、今までの疲れは飛んでしまった。

生徒全員の歌が迎えてくれ、感動で涙が出てしまった。歌が終わると、一人一人、私達の手をとり、自分の額に付けて挨拶をしてくれ、また、涙。気がつくや、周りにはたくさんの村人、「えっ!!どこからこんなにたくさんの人が来たの?」と思うほど。

歓迎セレモニーが校庭のステージで行われた。村長、PTA代表、神父様そして鎌ヶ谷国際文化交流会の太田尻代表の挨拶に続き、民族衣装を着た子ども達の踊り、歌などが催されている途中、突然のスコールで中断され、セレモニーは終了。

教室に戻り、日本から持参した折紙で一緒に楽しんだ。その後、豚の丸焼き2頭、鶏肉、ライスなどが子ども達、村人に振る舞われた。まるで村のお祭りのような賑わいだった。

その日は、ゲストハウスに一泊し、次の朝早くナブルを出発。またここに来たいという衝動に駆られた。



1年生から3年生まで、192人が迎えてくれました

ICECKによる校舎建設支援で2011年に開校したCMIPのナブル・カマガヤ小学校。校長のイトック神父は、3年後にはあと2教室増設して、6年生まで学べるようにしたいと考えています。また、父母の農業技術指導を兼ねて学校農園整備にも努めています。なお、教師4名のうち、ゴンサロ先生の給与はICECKが、ロニー先生とマイラ先生の分は「WE21 ジャパンさいわい」によって支えられています。(山崎)